

準備運動時におけるエンカウターの導入が自己発見に及ぼす影響

松本 悠(生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 南島 永衣子

キーワード：エンカウター、エゴグラム、自己発見

1. 緒言

近年、人間関係の希薄化が社会問題となっている。片野（2009）は、学校現場においても、深刻な問題として人間関係の希薄化を取り上げている。加えて、高橋（1996）は、学校体育において子ども達の社会的学習行動の重要性について言及している。その中で、教師の相互作用行動に関して、個々人との積極的な関わりが、形成的授業評価を高める上で大変有効であることを述べている。

一方で、教育現場において生徒間の人間関係向上プログラムや予防・開発的カウンセリングの一形態としてエンカウターが扱われてきた。（片野, 2009）しかし、先行研究ではエンカウターを交えた教材は、あくまで学級集団作りを先行しており、各個人の自己発見における調査はされていない。

そこで本研究では、エンカウターが自己発見にどのような影響を及ぼすか検討した。

2. 研究方法

B大学 サッカー部 男子（15名）で10月、11月の全7回行った。練習前にチームの指導者、コーチと選手は練習前に必ず握手と挨拶とコンディションの確認を行い、次に練習前の準備運動時に代わってエンカウターで用いられるエクササイズを導入

した。

また、調査用紙はエゴグラムと形成的授業評価を使用した。エゴグラムは CP (Critical Parent) NP (Nurturing Parent) A (Adult) AC (Adapted Child) FC (Free Child) の5つの項目に分けられており、本研究でも同様の分類で実施した。形成的授業評価では、高橋ら（2006）が作成したものに加筆修正を加えた。

3. 結果

1) 表1はエゴグラム実施前後における変容を示している。Aでは有意な差が見られた。NP、FCにおいては、有意な向上傾向にみられた。また、CP、ACにおいては有意な差は見られなかった。

表1 研究実施前後におけるエゴグラムの変容

| | PRE | POST | z値 |
|----|--------------|--------------|----------|
| | M(SD) | M(SD) | |
| CP | 10.23(3.961) | 10.92(4.838) | -1.440 |
| NP | 13.92(4.663) | 16.00(3.536) | -1.902 † |
| A | 13.62(2.219) | 14.85(2.512) | -2.395 * |
| AC | 8.85(5.113) | 10.00(4.933) | -1.229 |
| FC | 14.38(4.134) | 15.15(3.617) | -1.697 † |

2) 形成的評価の総合評価では導入前の2.04(1)に比べ、導入後5日後では2.44(3)と数値の向上が見られた。

4. まとめ

結果から準備運動時のエンカウターの導入が自己発見を高めることが示唆された。今後の課題として①エンカウター導入における具体的状況の検討②他のサイコエデュケーションが自己発見に及ぼす影響の検討③研究対象者の比較検討が上げられる。